

平成25年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	iPS細胞を利用した創薬研究支援事業		担当部局庁	医政局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度		担当課室	研究開発振興課		課長:一瀬 篤		
会計区分	一般会計		政策・施策名	I-8-1 新医薬品・医療機器の開発を促進するとともに、医薬品産業等の振興を図ること				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針 (平成22年厚生労働省告示第380号)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	iPS細胞研究がノーベル賞を受賞するなど、再生医療研究に関する国際競争は、激化してきており、日本のiPS細胞研究について、創薬研究を含め、更に推進する施策の早期実施が必要。 そこで、iPS細胞の研究の促進を図るための機器等の基盤整備を補助し、各種疾患に対する創薬のための開発環境の整備の推進を目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<ul style="list-style-type: none"> 難病等の患者由来のiPS細胞を利用し、当該疾患に対する創薬シーズを探索する体制 iPS細胞を肝細胞等に分化させ、その細胞を利用した薬剤候補物質の安全性を評価する体制 上記の体制を整備し、iPS細胞を利用し、画期的な新薬を開発する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算			1,992			
		繰越し等						
		計			1,992	—	—	
	執行額			1,967				
	執行率(%)			98.7%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (29年度)
	iPS細胞を利用した新薬候補物質数		成果実績		—	—	0	9
			達成度	%	—	—	0.0%	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	創薬研究体制を整備した機関数		活動実績 (当初見込み)	機関	—	—	9	—
					(—)	(8)	(—)	
単位当たりコスト	218,551,444(円/数)		算出根拠	1,966,963千円/9機関(創薬研究体制を整備した機関数)=218,551,444円/数				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	—	—	—	—				
	計	—	—					

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	iPS細胞を利用した創薬は迅速な実用化が求められており、国が主体的に取り組むよう求められている。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	iPS細胞を利用した創薬は迅速な実用化が求められており、国が主体的に取り組むよう求められている。		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○	iPS細胞を利用した創薬は迅速な実用化が求められており、国が主体的に取り組むよう求められている。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	公募により選定しており、妥当。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	交付基準額を適切に設定し、必要最低限の経費のみを予算計上している。		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○	最小限の費用で効果的な成果を見出した。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業内容を達成するため、必要な経費のみの計上と考える。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-		
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	国が主体的に取り組むことにより、iPS細胞を利用した創薬の迅速な実用化を図ることができるため、効果的な手法である。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	初期体制の確保を見込みどおり実施できた。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	本事業により次年度以降の研究体制が構築できたと考える。iPS細胞を利用した創薬の迅速な実用化に繋がると考える。		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	-		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
	-	-	-			
	-	-	-			
点検結果	iPS細胞を利用した創薬研究のため、初期体制の確保を実施できた。iPS細胞を利用した創薬研究の迅速な実用化に向け、引き続き必要な措置をしていきたい。					
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
-	-					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
-	-					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	-	平成23年	-	平成24年	-

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省
1,967百万円



【公募】

A.病院等 9機関
1,967百万円

〔iPS細胞を利用した創薬研究の体制整備〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.学校法人自治医科大学			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
備品購入費	創薬研究備品	240			
その他	機器保守料等	9			
計		249	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	学校法人自治医科大学	iPS細胞を利用した創薬研究事業	249		
2	国立大学法人東京大学	iPS細胞を利用した創薬研究事業	249		
3	学校法人慶應義塾大学	iPS細胞を利用した創薬研究事業	249		
4	国立大学法人大阪大学	iPS細胞を利用した創薬研究事業	249		
5	独立行政法人医薬基盤研究所	iPS細胞を利用した創薬研究事業	249		
6	独立行政法人国立成育医療研究センター	iPS細胞を利用した創薬研究事業	224		
7	国立大学法人九州大学	iPS細胞を利用した創薬研究事業	213		
8	国立大学法人熊本大学	iPS細胞を利用した創薬研究事業	205		
9	国立大学法人京都大学	iPS細胞を利用した創薬研究事業	80		
10					